

障がい者を介助する家族の防災対策実行意図の規定因

—目標達成の手段による比較—

○高尾 堅司・水子 学・井瀧川 真也・山根 嵩史・佐々木 新

(川崎医療福祉大学医療福祉学部)

問題

制御焦点理論(Higgins, 1997)に関連する研究が蓄積され始めて久しい。創造性課題を扱った研究(外山他, 2020)や自然災害のリスク情報の内容に関する研究(海上他, 2012)など多様性に富んでおり、制御焦点理論の適用範囲は広い。本研究は、制御焦点と防災対策行動に関連する諸変数が防災対策実行意図に及ぼす効果について探索的に分析を行った。

方法

2022年4月、障がいをもつ家族とともに暮らすモニターを対象に調査を実施した(マクロミル社に委託)。有効回答のうち、介助を要する障がい者と同居する182名(男:78, 女:104)を分析対象とした。質問項目は、属性項目(同居家族が所持する障害者手帳の種類等)、制御焦点尺度(元吉, 2017)、高尾他(2021)の防災対策費用評価、防災対策自己責任認知、防災対策付加価値評価を改変したもの、地震リスク認知(元吉他(2008)を改変)を用意した。さらに、防災対策事例活用意図(防災対策を実施することで得た楽しい経験(楽しい事例)と被災者による〇〇を備えておけば良かったといった後悔事例(後悔事例))、防災対策情報活用意図(減災効果が高い防災対策(減災情報))と個々の防災対策(30例程度)が詳細に記載された防災チェックリスト(詳細情報)、家庭防災実行意図(家族全員の被害軽減(全体的対策)と家族員個々の必要性に応じた防災対策(局所的対策))であった。なお、本研究は川崎医療福祉大学倫理委員会の承認を得た(承認番号:21-100)。

結果と考察

促進焦点得点から予防焦点得点を引いた値を相対的制御焦点として分析に使用した(高群:相対的促進焦点;低群:相対的予防焦点)。

防災対策事例集活用意図

楽しい事例において、地震リスク認知と防災対策付加価値評価の主効果が認められ、相対的予防焦点は地震リスク認知が関連していた(Figure 1)。後悔事例は、防災対策付加価値評価の主効果が認められた。

防災対策情報活用意図

詳細情報において、防災対策付加価値評価の主効果が認められ、相対的促進焦点は地震リスク認知が関連していた(Figure 2)。減災情報においては、地震リスク認知と防災対策付加価値評価の主効果が認められた。

家庭防災実行意図

局所的対策において、防災対策付加価値評価と防災対策自己責任認知の主効果が認められ、相対的予防焦点は地震リスク認知が関連していた(Figure 3)。全体的対策においては、防災対策費用評価、防災対策自己責任認知、防災対策付加価値評価の主効果が認められた。

以上の結果は、制御焦点の水準と地震リスク認知の程度によって、防災対策行動への動機づけが変化することを示唆している。

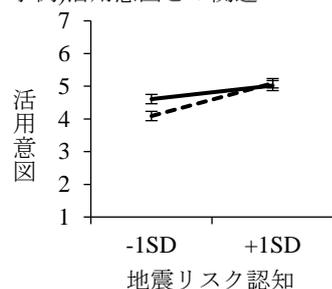
利益相反

本研究に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

謝辞

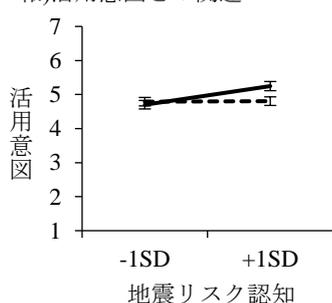
元吉 忠寛先生(関西大学)がご提供下さった制御焦点尺度の資料を使用させていただきました。ここに記して謝意を表します。本研究は、JSPS 科研費 JP20K03306 の助成を受けたものです。

Figure 1
相対的制御焦点および地震リスク認知と防災対策事例集(楽しい事例)活用意図との関連



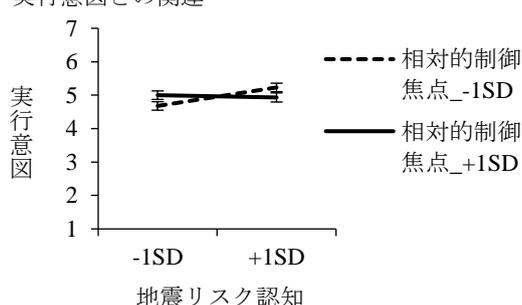
注)エラーバーは標準誤差を表す。

Figure 2
相対的制御焦点および地震リスク認知と防災対策情報(詳細情報)活用意図との関連



注)エラーバーは標準誤差を表す。

Figure 3
相対的制御焦点及び地震リスク認知と家族防災(局所的対策)実行意図との関連



注)エラーバーは標準誤差を表す。